

◎ 解答は解答题に書くこと。(氏名は書かないこと)
字数制限のあるものは、句読点などの記号も字数に含む。

受験番号

一 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

ことは身体的な道具であり、社会性・空間性を持つ現在の現象である。
 現・在・的・な・声・の・共・鳴・現・象・で・あ・る・は・ず・の・こ・と・ば・が、歴・史・的・な・性・質・を・持・つ・と・は・ど・う・い・う・こ・と・か。
 ① この無形の道具のなかには、忘れられた意味までもが刻みこまれている。つまりネットワークの結び目に、あるいはそのことばの意味空間に、現在では感じにくくなった意味の力もまた、織りこまれていて、ある奥行きをあたえている。
 それが、ここで論じてみたい歴史性である。

A 声の忘れられた蓄積

道具としてのことばの持つ歴史性は、人間が「文字」という記録手段を持つて以降、さらに明確に実感できるようになった。しかしながら、ここで論じようとする歴史性は、文字の発明と普及以後に始まるわけではない。声という現象それ自体が、時間性を内包している。すなわち区切られた音の分節が順序をもつて連なることで、ひとまとまりの意味を作り出している、声という現象の原点も忘れてはなるまい。そして、声による「ことば」の「演奏」がくりかえされ、その時間の経験が集積的に積み重なることで、言語という情報処理システムが人間と社会とにインストールされた。(A) ことばは意味を保有する安定した記号の体系として、声の空間において現象し、参照できる経験として積み重なっていった。

(B) ことばは幾重にも「時間の厚み」を背負っている。

第一に、声による身体の共振それ自体が、すでに現象すなわちできごとの時間をともなっている。もちろん、ここで生みだされている時間は、その本質において、現・在・的・な・も・の・で・あ・る。「今」での共振」が現在のなものであるからこそ、身体的かつ社会的な共在が保証される。声の持つ現在性は、ことばの力根源として大切である。いまなお西欧を含めたいくつもの社会に残っている、法や契約や誓いが読み上げられ、声で宣言されてはじめて実効性を承認されたいう感覚は、このことばの力の (I) 性に根拠を持つものだろう。

しかしながら第二に、ここで現前する力を支えている意味のネットワークそれ自体は、すでに存在することばの経験的な集合である。すなわち、意味の「結び目」のなかに、経験の蓄積としての歴・史・的・な・も・の・が・織・り・込・ま・れ・て・い・る。この前提条件として現われる目にみえない歴史性を、目にみえる形で視覚的に残すことになったのが、文字というテクノロジーであった。②

声のなかに潜む現在性と文字によって可視化された歴史性の重層それ自体が、ことばの歴史性というテーマのもとで論じなければならない、大きな主題のひとつである。そして考えるべき領域には、異なる二つの歴史性がまじりあっている。

ことばの意味の「内なる歴史性」と「外なる歴史性」である。

この二つは深く関連し作用しあっているが、人間の経験として、相対的に自律している。③

B 意味の地層としての歴史性

まず、ことばの意味の内なる歴史性から、押さえていこう。
 われわれはときどき、ことばの意味が社会的に変化してしまったことに、突然のように気づく。意味の中心がずれて、別な場所に移動してしまった、と感じる。あるいは、そのことに驚く。そのとき、われわれの身体は、ことばの意味の内側にある歴史性に触れている。
 例を挙げてみよう。

「やばい」という、あまり上品とはいえない形容詞がある。

慣習的には危険な事態を指し、感心できないことをあらわすために使われた。そのように不都合に光をあてて否定的な文脈のみ、このことは使ってきた年長世代にとって、「このスイッチ、やばい」という表現は、どこか奇妙に聞こえるのだが、意味がわからないわけでもないとも感じるだろう。

(C) 残念ながら、その菓子が賞味期限を過ぎてダメになって、食べると危ないのか、という理解であれば、それはまちがっている。「やばいよね」「うん、やばい、やばい」とやけに楽しそうに盛り上がっている、そんな光景をなんだか不思議には思っても、すでに若者ではない世代が頭に思い浮かべる

「やばい」の最初のイメージは、おそらく腹下しの危険である。

ところが、聞こえてきた表現に込められていた新しい意味は、「このデザートは意外にもたいへんおいしい」という感嘆である。わかったかのように思えた意味は、まったくズレていたわけだ。息子が電話口で言った「前回のテストが返ってきたけれど、やばいよ〜」という表現は、成績が予想外によかったという前向きの報告であった。ところが親は成績が悪くて危ないと告げられたと思って、家に帰ってきた本人に「次にはがんばらばいいんじゃないか」となくきめたつもりが、変な顔をされる事態も、同じタイプのズレだろう。

いつのまにか、「やばい」は、想定していなかった「すばらしい」「ことを賞賛すること」はなくなった。調べてみたわけではないから印象にすぎないが、おそらく一九九〇年代以降の、ごく最近ではないだろうか。「やばい」というひとつのことばのなかで、意味の相対的な位置がすでに移動してしまった。その歴史が「ことば」それ自体にきざみこまれている。

㉔ 動きの力を利用した逆転

「やばい」の反転のように、Ⅱ（と）Ⅲ（と）が逆転して、かえって強調の意味をそえるようになった例は、それほどめずらしいことではない。日本語の空間において、歴史的には何度も、また幾重にもくりかえされた。

こうした副詞や形容詞の逆転による変容も、ことばのネットワークとしての特性と、たぶん深く関連しているように思う。意味がネットワーク上の「位置」のようなものであれば、その結びつきを逆にたどると、位置関係それ自体は変わらないともいえる。むしろ慣れすぎて新鮮味がなくなった意味のつながりを、逆にひねって活性化させ、力を回復させる、お決まりの技法だったのかもしれない。

そういえば、普通でなく優れている、とほめる形容詞「すばらしい」にも、どこかで方向性の逆転があったようだ。古語辞典で調べると、江戸時代の用法には「ひどい」「とんでもない」という、良くない意味で載っている。感嘆とともに使われる「すごい」も、ふりかえってよくみると否定と肯定の意味を、共存させている。古くは寒さに始まって、ぞっとするほど恐ろしく感じる、もの淋しい状況をあらわした、という。おそらく身体感覚を支点にした同様の「逆転」「反転」のような転換を、いつの時代にであろうか、経験しているのである。

「全然」という副詞が、打ち消しで使い慣れた否定の役割から飛び出して、「全然うれしい」という強い肯定の用法で広く使われるようになった。その事実も、同じような変化として、われわれの記憶にあたらしい。

「全然うれしい」という表現は、もうずいぶんとくりかえして聞いたので慣れたが、そう言われ始めたときは、なにか耳にひつかかって、笑い出したい気分をともなった。たぶん「とてもうれしい」という孫たちの応答を聞いて、「面白そうに高笑いしたに違いない江戸時代生まれの老人たちの当惑と、ほとんど同じ気分だったのではないだろうか」柳田国男 一九五六→一九九八・三二九―三三三。

⑥「全然」も「とても」も、ある集団のなかでは普通に打ち消しの「ない」をともなっていて、はじめて結びとして落ち着くことができる表現であった。その意味を強める勢いだけが、新しい肯定の結合においても流用されたわけだ。方向が一八〇度異なることは、やがて気にもされなくなり、「とてもうれしい」の奇異さは、辞書を引いてはじめて気づくほどの違和感になってしまった。

ことばの持つ意味の歴史的な厚みには、ふだんはあまり意識していない変化もまた、刻みこまれたままに忘れられている。

（佐藤 健二『ケータイ化する日本語——モバイル時代の「感じる」「伝える」「考える」より』）

問一、（ A ）（ ）（ C ）に当てはまる語を、次のア～オの中からそれぞれ一つ選び記号で答えなさい。

ア しかし イ なぜなら ウ すなわち エ だから オ むしろ

問二、傍線部①「この無形の道具」とは何を指すか、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 共鳴現象 イ ことば ウ ネットワーク エ 声

問三、（ ）に入る適当な語を、本文中から抜き出さなさい。

問四、傍線部②「目にみえる形で視覚的に残すこと」とあるが、「目に見えるようにする」という意味を表す語を、本文中から抜き出さなさい。

問五、傍線部③「相対的」の反対語を、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 総合的 イ 直接的 ウ 絶対的 エ 客観的

問六、傍線部④「同じタイプのズレ」とあるが、「やばい」以外に同じタイプのズレが生じた言葉を本文中からすべて抜き出さなさい。

問七、（ ）Ⅱ（と）Ⅲ（ ）に入る語を、次のア～クの中からそれぞれ一つ選び記号で答えなさい。

ア 臨時 イ 肯定 ウ 賛成 エ 通常 オ 原因 カ 反対 キ 否定 ク 結果

問八、傍線部⑤「ことばのネットワークとしての特性」とはどのようなものか。最も当てはまるものを次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 社会性・空間性を持つ現在の現象であること
イ 意味を保有する安定した記号の体系であること
ウ 経験の蓄積としての歴史的なるものが織り込まれていること
エ 声で宣言されてはじめて実効性が承認されること

問九、傍線部⑥『全滅』も『とても』も、ある集団のなかでは普通に打ち消しの『ない』をともなうて、はじめて結びとして落ち着くことができる表現であった」とあるが、このような副詞を「呼応の副詞」という。次の文の傍線部も同じような働きを持つ語である。そのことを踏まえて、() に当てはまる語を、後のア～カの中からそれぞれ一つ選び記号で答えなさい。

- (1) たぶん夕食はハンバーグ ()。(2) まさか知らないということはある ()。()
- ア だろう イ か ウ のはずだ エ だ オ まい カ ようだ

問十、傍線部⑦「辞書を引いてはじめて気づくほどの違和感になってしまった」とあるが、その理由を「～から」と続くように、**B**の段落の中から二十文字以内で抜き出し、最初と最後の各五文字を答えなさい。

問十一、本文の内容に合致するものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア ことばの意味の内なる歴史性には、ふだんはあまり意識していない変化もまた、刻みこまれている。
 イ 現在では使われなくなった意味の力が織りこまれることよってのみ、ことばは奥行きをあたえられる。
 ウ ことばの意味の「内なる歴史性」と「外なる歴史性」の二つは、実際はまったく関連しないものである。
 エ 副詞や形容詞の逆転による変容は、ことばの持つ特質や歴史の上から考えると仕方のないものである。

二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

お客さまは、この町の方じゃありませんね。いえ、なんとなく。身なりもきちんとされてらっしゃいますし。どちらからお越しになられたのですか。ああ、それはそれは。こんな田舎までどうも。インターネットってやつですか、私はパソコンはからっきしですけど、ここが少々噂うわさになっていて話、人づてに聞いています。長くやっているとただけの年寄りの店を面白がつて、遠くから来てくださるお客さまがいらっしゃるのは、まあ、ありがたいことです。

ありがたい、口ではそう言っても、本当は() () () ふうに見えた。鏡に映る店主の顔には、ほかの表情が想像できない完璧はげな微笑ほほえみが浮かんでいるのだが、唇の両側に深く刻まれている笑い皺しわが、目尻にはなかった。

髪に温水がスプレーされ、頭に蒸しタオルが載せられる。

床屋で髪を切るのは何年ぶりだろう。高校を卒業してからは、流行はやりのヘアスタイルにしたくて、美容院でカットするようになった。なにしろ行きつけどた床屋のオヤジは、いつも僕の髪を自分と同じ七分けにしようとするので。

店主がタオルを頭皮に押しつけてくる。熱い、と声を漏らしそうになるほど熱い。だが、不快いやじゃない。そうそう、この蒸しタオルの、毛穴のひとつひとつにしみ入る熱さが床屋の醍醐味だいごみだったつけ。久しく忘れていた懐かしい感触だ。

蒸しタオルからはかすかにトニックの香りがした。この匂いも懐かしい。大人の匂いだ。子どもの頃、床屋へ行くたびに、自分の知らない世界せかいの手がかりのように嗅いだ、大人の男の匂い。

どのようにいたしましたでしょうか。お客さまはお若いから、ふだんは床屋をご利用になっていないのではありませんか。ええ、わかりますとも。美容師さんと我々では切り方が違いますから。こんな田舎の床屋までわざわざ来られるなんて、何か思うところがありなのでしょう。

失礼、よけいな詮索せんさくでした。何かを決断したり、変えようとする時に、床屋に行く、そういう方、案外に多おほうございますもので。長年この商売をやっている私、つくづく思うのです。髪aに髪を切るのは女性の() () () ではなくて、男も同じだと。

ご心配なく、古めかしい髪型にはいたしませんから。なんなりとご希望をおっしゃってください。

髪型にあれこれ注文をつけるのは苦手だ。いまの髪を少し切り戻すだけで。いつもの言葉を口にしたけど、トニックの香りを嗅いでいるうちに気が変わった。せつかくヒョウ判bの理髪店にやって来たのだ。僕は言ってみた。どんな髪型がいいでしょうか、お任せしてもいいですか。そのとたん、店主の目尻に皺cが浮かんだ。

嬉しいご注文ですね。床屋冥利みょうりにつきます。ですが、お任せいただくなんて、とんでもない。ちゃんと相談のうえで切らせていただきます。

そうですね、お客さまは細面ほそおもてでいらっしゃるから、もう少し両サイドにふくらみをもたせたほうがいいかもしれませんね。利き目はどちらですか。右ですね。では分け目も右にいたしましょうか。人の視線というのは分け目のほうに向くものなんです。利き目と視線が合えば、その方の表情もいきいきして見えやすいです。

どんなお仕事をされているんですか。立ち入ったことをお聞きするつもりはありませんが、大勢の人と接する仕事なのか、清々c感が大事な仕事なのか、信用が第一の仕事なのか、そのあたりだけはお聞かせください。仕事の柄とでもいいですか。

男の髪というものは、仕事の柄によって変えるべきだと私は思うのです。お顔だちや服装にだけでなく、日々の仕事にも髪型を合わせるべきではないでしょうか。昨今はほら、スポーツ選手とホストの見分けもつきませんものね。古い考えですけど。

グラフィックデザイナー？ ああ、なるほど、本や雑誌なんかのデザインをねえ。

店主が僕の髪をひと束つまみ、指先でさすった。小さく頷いてから、頭全体を骨董品の壺でも扱うような手つきで撫でまわしはじめる。ときおり首をかしげていた。毛質や頭の輪郭を確かめているのだろうけれど、この店で髪を切るのにふさわしい人間かどうか、資格試験を受けている気分だった。

妙な位置にある僕のつむじのところで、手が止まる。店主はひとしきり髪をまさぐってから、小さなため息をついた。何を言われるかと緊張したが、皺のひとつみたいな薄い唇から出たのは、僕の新しい髪型に関するいくつかの選択肢と提案だけだった。

僕が口を開く前に、店主が反論を断ち切るように、いつのまにか手にしていた鉢をかしやりと鳴らした。そして、最終弁論といった口チョウで、たいていの方は、と切りだした。

たいていの方は、なぜか、わざわざ自分に似合わない髪型を希望になるのです。もうお若くないのに、若い頃のままの髪型をとどめようとなさったり、いかつい顔たちの方が、ヤサ男風の髪を望まれたり。私なんぞが言うのもなんですが、こうありがたい自分と、現実の自分というのは、往々にして別ものなのでしょねえ。ちゃんと鏡に映っているんですけれど。

では、最初に説明してもらったほうでお願いします。そう答えた。店主のどの提案を受け入れても、僕の髪は、かなり短いものになりそうだった。硬くし続けていた背筋を、ようやく椅子に預ける。手術台へ横たわった気分です。店主の言葉に従えば、一時間後には、僕は、僕の知らない本来の自分に出くわすことになるのかもしれない。

ヘッドレストとフットレストのついた椅子は、おだやかな抱擁のように僕を包む。体が沈みこむ柔らかさと、体を頼もしく支える弾力が墨革の中で拮抗して、水の上に浮かんでいる気分させる。

目の前には大きな鏡がある。その鏡いっばいに海が広がっていた。沿道より高みにあるこの店は窓の向こうに遮るものがない。背後の窓の先にある海が、鏡に映っているのだ。

秋の午後の水色の空と、深い藍色の海。二つの青が鏡を半分に分けている。ほかの色合いは、絵の具の塗り残しのような白いすじ雲だけだ。右から左へ海鳥が横切っていく姿がなければ、一〇〇号の風景画を飾った額のようにだ。

鏡、気に入っていただけましたか。どうぞ楽しんでやってください。まっすぐ前を見ていただけから、こちらでも仕事がやりやすいんです。うちは理容椅子で本をお読みななるのを遠慮はいたしていますが、最近、椅子に座るなり携帯電話を取り出して、いじられる方が結構いらつしやるんですよ。

後頭部の髪が櫛でぐいっと引き上げられる。毛根がつっぱるほどの力だ。逆撫でされた髪が、しゃきんという音とともに切られ、櫛から解放される。むず痒いような快感だった。

ぐいっ、しゃきん。頭をガラス製の置き物のように扱われる美容室とは音まで違う。床屋というのは、こんなに気持ちのいいものだった。店主の腕のせいでらうか。

僕の座る椅子の斜め上の壁には、線画のリトグラフを飾るついでみたいに、賞状の入った額がかけられている。視界ぎりぎりまで目を走らせれば、棚の上の観葉植物にまぎれてトロフィーが置かれているのも見てとれた。

この理髪店の店主をかつて世間の噂にしたのは、腕に惚れた大物俳優や政財界の名士が店に通いつめていたという数々の逸話だ。去年、常連だった大物俳優が亡くなった時に、再びそのエピソードが話題になり、店主が東京から離れた海辺の小さな町で理髪店を続けていることも雑誌の記事になった。

ダメでもとものつもりで予約の電話を入れたら、希望の日がちがあつさり取れた。僕が来る直前まで客がいた気配はなく、僕のあとに誰かが入ってくることもなかった。

(荻原 浩 『海に見える理髪店』より)

問一、傍線部 a～d のカタカナと同じ漢字を使う熟語を、それぞれア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- | | | | | |
|----------|---------|--------|--------|--------|
| a 「転ギ」 | 「ア キ候 | イ キ門 | ウ キ械 | エ キ間 |
| b 「ヒョウ判」 | 「ア 風ヒョウ | イ 目ヒョウ | ウ ヒョウ記 | エ ヒョウ山 |
| c 「清ケツ」 | 「ア ケツ論 | イ 評ケツ | ウ 秘ケツ | エ 簡ケツ |
| d 「口チョウ | 「ア チョウ簿 | イ 協チョウ | ウ 延チョウ | エ 慎チョウ |

問二、二重傍線部「」の「ない」のうち、品詞が他と異なるものを一つ選び記号で答えなさい。

問三、（ ） に当てはまるものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 迷惑がついている イ うれしがっている ウ 不思議がついている エ 得意がついている

問四、（ ） には、「その人だけが得意とする技術や方法」という意味の四字熟語が入ります。当てはまる四字熟語を、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 専売特許 イ 一意専心 ウ 存在価値 エ 栄枯盛衰

問五、傍線部①「頭全体を骨董品の壺でも扱うような手つきで撫でまわしはじめる」に使われている表現技法を、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 倒置法 イ 直喩法 ウ 反復法 エ 擬人法

問六、傍線部②「ちゃんと鏡に映っているんですけれど」とあるが、何が映っているのか、本文中から抜き出さない。

問七、傍線部③「目を走らせれば」とあるが、「目を走らせる」という言葉の使い方として正しいものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 担任の先生に叱られ、驚きのあまり目を走らせた。 イ 値段を見たところ、あまりの高さに目を走らせた。

ウ 祖母は、何度となく読んだ新聞記事に目を走らせた。 エ 友達の段取りの悪さに怒りを覚え、目を走らせた。

問八、傍線部④「世間」の熟語の構成を、A群のア～カの中から一つ選び記号で答えなさい。また、同じ構成の熟語を、B群のア～カの中から一つ選び記号で答えなさい。

A群 ア 同じような意味の漢字を重ねたもの イ 反対または対応の意味を表す漢字を重ねたもの

ウ 上の字が下の字を修飾しているもの エ 下の字が上の字の目的語・補語になっているもの

オ 主語と述語の関係にあるもの カ 上の字が下の字の意味を打ち消しているもの

B群 ア 拍手 イ 非行 ウ 開閉 エ 私立 オ 快勝 カ 温暖

問九、店主が本当に喜んでいることが分かる表現を、本文中から抜き出さない。

問十、店主の人物像として最も当てはまるものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア あたりは柔らかいが、理髪師としての信念を持っている人物。 イ 優柔不断だが、理髪師として人気の高い人物。

ウ 気取りがなく親しみやすいが、プライドの高い人物。 エ 頑固で横柄ではあるが、確かな技術を持つ人物。

問十一、本文の内容に合致するものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 僕は何年ぶりに訪れた床屋で、懐かしさとともに気持ちの良さを感じている。

イ 僕はふだんから床屋に行っているので、トニックの香りに慣れ親しんでいる。

ウ 都会での仕事がつらくなった店主が、人里離れた田舎で理髪店を営んでいる。

エ この店が人気になった理由は、海の映る大きな鏡が話題になったからである。

三 次の各問いに答えなさい。

問一、次の各文の傍線部を、主語にふさわしい敬語に直すとき正しいものを、それぞれア～ウの中から一つ選び記号で答えなさい。

① 社長が自宅に来る。 【ア お見えになる イ 伺われる ウ 参られる 【

② 社長が夕食を食べる。 【ア 召し上がる イ 食べはる ウ 頂戴する 【

③ 社長が私に言う。 【ア おっしゃられる イ おっしゃる ウ 申し上げる 【

問二、次の各文が【 】内の意味になるように、空欄に入る言葉を、後のア～オの中からそれぞれ一つ選び記号で答えなさい。

① () が西むきや尾は東 【 当たり前のこと 【

② 立つ () 跡を濁さず 【 引き際は美しくあるべきだということ 【

③ 腐っても () 【 本心に良いものは、たとえ少し悪くなくてもそれなりの価値を保つということ 【

ア 虎 イ 犬 ウ 鯛 エ 鳥 オ 竜

問三、A・B・Cの三人がいます。そのうち二人は正直者(常に真実を言う人)、一人は嘘つき(常に真実と反対のことを言う人)です。三人とも誰が正直者で、誰が嘘つきか知っています。次のような証言があるとき、嘘つきは誰でしょうか。後のア～ウの中から一つ選び記号で答えなさい。

Aの証言 … Cは嘘つきである。 Bの証言 … Aは正直者である。 Cの証言 … Bは嘘つきである。

ア A イ B ウ C

問四、次のア～エの文を並び替えたとき、最後に来る文を記号で答えなさい。

ア しかし、そんな猛毒を持つキロネックスにも弱点があります。 イ このクラゲの毒は三分で人の命を奪うと言われています。

ウ キロネックスというクラゲを「存じ」でしょうか。 エ 毒に耐性をもつウミガメには簡単に捕食されてしまいます。